

vol. 44

The News Letter
2021 WINTER

一般社団法人 日本歯科審美学会

General Incorporated Association Japan Academy of Esthetic Dentistry

巻 頭 言

after コロナの「明眸皓齒」に向けて

一般社団法人日本歯科審美学会 副理事長 山本一世



「先行きが見えない」と言われ続けた新型コロナウイルス感染症も、今年(2021年)の夏の終わりころから新規感染者数が急激に減少してきました。このニュースレターが出る頃の状況はいかがでしょうか？ 第6波の懸念などまだ油断はできないものの、とりあえずは先が見えてきたといったところでしょうか。

他のあらゆる集団活動と同様、本学会もこの2年近く、まさに想定外の運営が続いてきました。このニュースレターには宮崎真至大会長の第32回学術大会の開催報告が掲載されていると思いますが、現地での対面開催に加え、一般演題をe-ポスターとし、さらに一部のプログラムをアーカイブ配信するなどいろいろと苦心されているようです。成功裡に終えられていることを心より祈念しております。

このように長らくコロナ対応に振り回されてきましたが、そろそろ本学会も「after コロナ」を考える時期に来ていると思います。小生は大学で講義の際、ときどき学生に「明眸皓齒という言葉を知っているか？」と訊きます(知っている学生はほとんどおりませんが)。この四字熟語が示す通り、“目もと”と“口もと”は人の顔貌を決定づける二大要素ですが、after コロナとなり現在のような常時マスク着用が不要となったとき、口もとをきれいにしていきたいという思いも多くの人々に戻ってくるでしょう。大槻理事長は学会運営方針の柱として「審美歯科治療および歯科審美学について、国民の皆さんにわかりやすい表現で再定義を行い、これを会員の皆さんとともに国民の皆様へ周知すること」を挙げられています。すなわち、「歯科審美学とは、顎口腔系における形態美・色彩美・機能美の調和を図り、人々の幸福に貢献する歯科医療のための教育および学習に関する学問体系である(日本歯科審美学会教授要綱)」という、我々にとってなじみ深い定義を噛み砕いて国民に周知すること、そしてあらゆる意味で正しい審美歯科治療を行うことができる歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士を育成・保護し、将来的には「審美歯科」を堂々と標榜できるよう努力することが本学会に課せられた使命といえます。今後とも会員の皆様の変らぬお力添えを何卒よろしく願いいたします。

第33回 日本歯科審美学会学術大会のご案内

日本歯科大学新潟生命歯学部歯科保存学第2講座 大会長 新海航一



令和の時代に入り、早3年が経ちました。光陰矢の如し、時の流れは早いものです。今から13年前の平成20年10月12日・13日の両日、新潟市にある本学講堂をメイン会場として加藤喜郎大会長のもとで第19回日本歯科審美学会学術大会を開催させていただきました。懇親会ではダンスパーティを兼ねたガラディナー

を開催し、10年以上前とはいえ、その派手な演出を記憶されている先生も多いのではないかと思います。そして第33回学術大会を令和4年10月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり、14年ぶりに新潟市で開催させていただきます。本学会も会員数が6,000名を超えて大所帯となり、大勢の会員皆様のご参加を期待し、コンサートホールや劇場を有する大型公共施設の「りゅうとぴあ新潟市民芸術文化会館」を会場として手配しております。この会場周辺には、白山神社、白山公園、信濃川河川敷の「やすらぎ堤」等々があり、春は花見、夏は大花火大会で大勢の市民が集まり、憩いの場として利用されております。皆様も是非、休憩時間を利用して会場周辺を散策してみたいはいかがでしょうか。

さて、本学術大会のテーマは「形態・色彩・機能、三位一体の歯科審美」とさせていただきます。きれいな口元は、誰しもが望むものです。いうまでもありませんが、きれいな口元は、きれいな歯ならびと歯の形そして歯の色から成り立ちます。そこで忘れてはならないのは、歯の機能です。形態や色を重視するあまり、大切な機能を見失ってはなりません。「歯科審美」を学会名に謳う本学会は、国民の多くが望む「きれいな口元」をしっかりと国民に提供できることを使命としています。本学会の特徴としては、専門領域というより審美的歯科治療を志す歯科保存、歯科補綴および歯科矯正の3分野を中心とした先生方の集合体として成り立っています。また、会員は歯科医師ばかりでなく、歯科衛生士と歯科技工士が多く、これらの意味合いから「三位一体の学会」といえる学術団体であると思います。

そこで本学術大会では、次のようなプログラムを企画しようと考えています。シンポジウムは、歯科保存分野から「歯髄保存を考慮した深在性齲蝕に対するコンポジットレジン修復」、歯科補綴分野から「歯の保存と咀嚼機能を考慮した審美的補綴治療」そして歯科矯正分野から「歯根に優しい歯列矯正」をテーマとして考えております。歯科医師、歯科衛生士および歯科技工士を連携させるセッションでは、「審美的歯科治療を成功させるための情報伝達」と「修復物・補綴物の審美性を維持するためのチームプレー」をシンポジウムのテーマとして挙げておきます。これらはあくまでも現段階での仮題ですので、変更される可能性が高いこともご承知おきいただけますと幸いです。

令和3年10月下旬の時点では、全国のCOVID-19新規感染者数は300名程度まで激減しています。ワクチン接種が進むにつれて新規感染者数は減っていますが、この状況は収束ではなく、今後第6波の襲来も懸念されております。これから1年後においてはCOVID-19感染症が収束している世界であることを期待しますが、ウィズコロナの時代として感染予防対策は十分に配慮された大会運営を実施したいと考えております。今のところ、会員懇親会の開催を予定し、会場を手配しております。久々の懇親会となりますが、新潟の地酒を味わいながら和やかな交流の場が提供できることを願っております。遠藤敏哉実行委員長と鈴木雅也準備委員長を中心にこれから粛々と大会準備を進めて参ります。つきましては、会員皆様方のご支援・ご協力そして第33回学術大会への積極的なご参加を何卒よろしくお願い申し上げます。



学会会場のりゅうとびあ新潟市民芸術文化会館

学術大会報告

第32回日本歯科審美学会学術大会を終えて

日本大学歯学部保存学教室修復学講座 大会長 宮崎真至



2021年11月13日・14日の2日間にわたり、第32回日本歯科審美学会学術大会が江東区有明に立地するTFTホールにおいて対面式で開催されました。新型コロナウイルス感染症の新規陽性者数が減少している状況であったとはいえ、およそ400人もの会員の皆様に会場に足を運んでいただいたことに対して、まずもって感謝申し上げます。

本学術大会のメインテーマを「Challenge：歯科における審美の可能性を探る！」とした意図には、本学術大会を開催する上で大きく2つの目標を掲げ、これを達成するために挑戦するという強い意志を表したいとの考えがあったからです。

第1の挑戦は、日本歯科審美学会の多様性を最大限に活かし、歯科医師のみでなく歯科技工士そして歯科衛生士がそれぞれの立場を超えて論じ、歯科審美の将来性、可能性あるいは方向性を切り拓くための挑戦です。一般演題をe-ポスター形式とすることで、症例報告から基礎研究まで64の演題発表があり、臨床の最前線で活躍する臨床医と大学ならびに歯科材料メーカーの研究者との間で多くの意見交換がなされました。また、セミナーの内容も多岐にわたり、審美歯科治療への異なる専門領域からのアプローチについての講演とともに（植松厚夫先生、大谷一紀先生、田代浩史先生、北原信也先生、橋場千織先生、高岡亮太先生、佐藤洋平先生）、メタルフリー修復の最前線について、これを支える



会場

テクニックとマテリアルの両面からご講演いただきました(土屋賢司先生、新谷明一先生)。さらに、ホワイトニングの新たな潮流について多くのエビデンスを示すとともに(椿知之先生、大森かをる先生、永瀬佳奈先生)、協賛メーカーの積極的なご支援により、参加された会員の皆様への貴重な情報提供の場になったと感じております(田上順次先生、新妻由衣子先生、大槻昌幸先生、保坂啓一先生、宮崎真至先生)。歯科技工士セッションではデジタルデンティストリーについて(小峰太先生、天川由美子先生)、歯科衛生士セッションでは、審美歯科治療を成功させるためのチームワークアプローチの実際について講演いただき(加藤正治先生、片山章子先生)、まさに、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の垣根を超えた学会となったのではないのでしょうか。

第2の挑戦は、新型コロナウイルス感染症の影響によって多くの学会が対面式での開催を断念せざるを得ない状況を打破し、『withコロナでの新たな学術大会のあり方』を模索し、成功させるという挑戦です。大型イベント等で行われてきた、密集・密接・密室を避ける、安全な距離を保つ、こまめに手を洗う、室内換気と咳エチケット、マスクの着用を感染対策のベースとし、プログラムの進行をできるだけシンプルにすることで感染防止に努めました。感染対策の行き届いた会場で、安心して学術大会にご参加いただけたのではないかと自負しております。また、本学術大会が、新型コロナウイルスによる「学会の新しい様式」の実践の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、多くの学会が学術講演会をオンラインなどとするなかで、対面式での開催をご快諾いただきました大槻昌幸日本歯科審美学会理事長はじめ、ご講演いただいた講師の先生方、学術大会をご支援くださいました企業ならびに関係者の皆様に感謝申し上げます、学術大会の報告とさせていただきます。



表彰式

海外学会参加報告

第16回アジア歯科審美学会参加報告

大阪大学大学院歯学研究所 クラウンブリッジ補綴学分野 若林一道

16th Biennial Meeting of the Asian Academy of Aesthetic Dentistry (AAAD) が、2021年11月15-22日、Kim Myung-Jin アジア歯科審美学会会長、Kim Ki-Seong 韓国審美学会 (KAED) 会長のもと、オンラインにて開催されました。当初は2020年に韓国のソウルにて開催される予定だったのですが、COVID-19の影響により、2021年に延期されました。しかしながら、この年末になっても世界的に収束する様子もなく、対面式ではなくオンラインでの開催となりました。この学会のために多大なる準備をされていたKim Myung-Jin先生と画面越しでお話をしたのですが、Kim先生も、とても残念そうでした。

内容としましては、Keynote SpeakerとしてDr. Dietschi Didierが「Interceptive treatment of Tooth Wear with minimal or no-prep techniques」、Dr. Suh Byoung-Inが「Part1: All that universal bonding · Part2 : Zirconia and indirect bonding」、Dr. Wael Attが「Digital workflow for full-arch implant dentistry 2.0」というタイトルで講演をされました。

Invite speake には、Dr. Sushil Koirala (Nepal)、Dr. Ronnie Yap (Singapore)、Dr. Nurul Hassan (Malaysia)、Dr. Steve Sheng-Peng Wang (Taiwan)、Dr. Aaron Neal Lu (Philippines)、Dr. Park Ji-Man (Korea)、Dr. Shin Jun-Hyuk (Korea)、日



大会プログラム

本からは、本学会の大槻昌幸理事長が「Esthetic dentistry based on minimal intervention—JAED's challenges in the new frontier—」というタイトルで講演をされました。

私はJAEDからの派遣演者として、International show cases プログラムにおいて、「Development of a new optical impression method using 3D Boolean Operation」というタイトルで講演を行いました。なかなかAAADにマッチした講演内容を用意するのが難しかったのですが、昨年、大学院を修了しました西山貴浩君が、オーラルスキャナーでは計測が困難である歯肉縁下のフィニッシュラインを、プロビジョナルレストレーションの内面データとブーリアン演算で再構築する という研究を行なってくれましたので、その研究内容および臨床例で講演を行いました。いろいろ準備を手伝ってくれた西山貴浩君に改めてお礼を申し上げます。その他、韓国審美学会からの講演、およびポスター発表がありました。

それほど英語が得意ではないのため、当初、動画によるオンライン講演の方が対面形式よりも気が楽かなと思っていましたが、終わってみると、やはり参加者の前で講演してみたかったとの思いも出てきました。多くの海外からの参加者と触れ合い、講演を聞き、その後、現地の美味しい食事を楽しむというのが、国際学会参加の醍醐味です。今回のAAAD大会は充実した内容の学会であったと思いますが、日本からの参加者も10名程度にとどまり、やはり対面式に比べると、少し盛り上がりにかけての感じも否めません。次回は2023年にスリランカにて開催される予定ですが、その時までにCOVID-19が落ち着き、アジア各国の友人たちと会えることを願っております。



オンラインによるレクチャー

学会特別功労賞受賞者のご紹介

学会特別功労賞を受賞して

福岡歯科大学名誉教授 佐藤博信



歯科審美学会には平成13年(2001年)から、いやその少し前くらいから、本学会のお世話になっております。同年4月から代議員に就任、11月には隣接講座の羽生教授の主催される福岡での学術大会を現学長の高橋教授、同じく隣接講座の松浦教授とともにお手伝いしたことから本格的に関わりを持つようになりました。

その後、平成19年(2007年)に認定医の取得、平成19年(2007年)に理事に就任(2021年まで)、この間、常任理事・広報委員会委員長として、まずはホームページの立ち上げに関わりました。ちょうど今年のホームページ改定まで使用していたものです。関係していただいた斉木先生、橋場先生、現在の広報の若林先生他、多くの方々に助けていただき感謝です。その後も平成24年(2012年)から、常任理事・セミナー委員長・学術部会長として、各種学術セミナーの企画・総括だけでなく、学術大会の開催に関わらせていただき、国内外の多くのすぐれた臨床家やアカデミアの関係者と多くの交流をさせていただきました(平成29年・2017年まで)。平成29年には富山で開催された第10回の国際審美歯科学会の組織委員会の副委員長も務めさせていただきました。その後も平成29年(2017年)からは監事として、令和3年(2021年)からは顧問として、現在も活動を続けているところです。

研究につきましては、ジルコニアやホワイトニングに関する色測研究や歯列の形態学的な研究も少しづつではありますが、行ってまいりました。なかでもスウェーデン・イエテボリ大学との間で「歯の見え方に関する国際共同研究」(The International Journal of Prosthodontics 11:246-254,1998)は、世界的に最も使用頻度が高いとされるRosentiel教授らが編纂された、クラウンブリッジの教科書に取り上げられ、得難い業績の一つです。教育では数年前になりますか、前藤澤理事長らと教授要綱改定作業に関わりました。こちらも何とか形になりました。

まだ、会員の皆さんとの楽しい思い出でなど、書く残すことは多数ありますが、今までの実績を簡単に羅列させていただき、功労賞受賞の感想とさせていただきます。

学会特別功労賞受賞者のご紹介

学会功労賞を拝受して

末瀬一彦



このたびは（一社）日本歯科審美学会「学会功労賞」を受賞させていただき、光栄の至りです。1998年4月に本学会に入会後、学会発表や講演、委員会活動などを数多く務めさせていただき、2012年4月から2017年6月まで千田彰学会長および宮内修平学会長のもとで5年間にわたり副会長を務めさせていただきました。その後も監事、顧問として

学会運営に携わらせていただき、微力ながら学会の発展に積極的に参画させていただきました。本学会では多くの先生方や企業の皆様方との「出会い」をいただき、今の私の大きな財産になっています。

本学会在籍中に最も印象に残りますのは、2011年10月に開催させていただきました「第22回日本歯科審美学会」です。

「いにしへの都で審美を語ろうー温故知新ー」の大会テーマで、特別講演には奈良が生んだ世界的映画監督・河瀬直美氏と薬師寺管主・山田法胤師のお二人にお話しいただきました。河瀬氏には奈良の自然、奈良固有の美しさを語っていただくとともにレンズを通して見る奈良の奥深い審美を参加者にも感じていただきました。また、山田氏には世界的遺産である薬師寺の魅力を通して日本人のもつ内面的、外面的美しさについて熱く語っていただきました。記憶に残る学会開催は講演内容もさることながら「会員と楽しく触れ合う懇親会」であると思い、趣向を凝らしました。メイン会場の能楽ホールにおいて奈良古来の伝統芸能 雅楽演奏をお楽しみいただき、しばし幽玄の世界を堪能していただいたあと、さわやかな秋の夜空のもと庭園において勇壮な和太鼓、日本酒発祥の地酒に舌鼓をうっていただき、総勢30名の日本一のチアリーディングで会場を最高潮に盛り上げていただきました。皆様方の記憶に少しでも残っていましたらとてもうれしいです。

本学会も会員数が4,000名を超え、ますます活気があり、「認定医・認定士」制度や本学会独自の「出張講義」なども順調に執行され、さらなる発展が期待されます。国民にとって「心身ともに美しさ」が満たされるように本学会としてのミッションを果たしていただきたいと思います。

本学会の今後ますますのご発展、会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

優秀発表賞受賞者のご紹介

デンツプライシロナ賞を受賞して

北海道医療大学歯学部 口腔機能修復・再建学系 う蝕制御治療学分野 油井知雄



日本歯科審美学会第31回学術大会においてデンツプライシロナ賞に選出頂きましたことを大変嬉しく、また深く感謝を申し上げたいと思います。

近年のデジタル技術の発展に伴い、Intra Oral Scanner (以下IOS) を用いた光学印象法の実用化は修復、補綴処置の簡略化と従来のロストワックス法における過程を排除しているため高精度のデジタル印象を可能とします。一方、IOSのデジタル印象の再現性に与える因子として不適切な操作 (オペレータースキルやスキャナーのアプローチアングル)、画像データのフィッティングやスムージング時の誤差、窩洞の位置や深さ、歯間距離や隣接歯の歯軸の歪み等が報告されています。また現在のIOSを用いたインレー修復に関する臨床的知見は、未だ乏しく十分ではありません。

そこで今回の研究では、インレー修復がCAD/CAMに臨床応用されることを期待して、CAD/CAMインレー修復に準ずる3種の深さにおける窩洞形成を行い、CEREC OmnicamとTRIOS 3から得られたStandard Triangulated Language (以下STL) dataを抽出しました。そして三次元データ解析ソフト (GOM-Inspect) を用いて窩洞内に基準軸平面を設定し、ベストフィットアルゴリズム法を用いてインレーの適合に重要とされるMarginal, Internal fit (1ヶ所に対して前後100 μ m間隔に3点を計測し、計測部位25ヶ所における計75の計測点) を計測した偏位量を比較、検討しました。その結果から窩洞の深さの増加は、IOSの空間分解能および検出精度の低下に繋がり、IOSに適応したCAD/CAMインレーの窩洞深さは2.0mm以下が適切と示唆されました。

今後は、IOSとインレー修復に関する更なる知見を深めるために詳細な検討を続けて行く予定です。

委員会報告

編集委員会

会員の皆様におかれましては、平素から「歯科審美」の発行にご協力頂き有難うございます。2021年4月から、2期目の編集委員長を拝命致しました。編集委員会は、経験豊富な金子 潤先生(副委員長)、高見澤俊樹先生、野本俊太郎先生、三浦賞子先生、山口徹太郎先生、友田篤臣先生、鈴木雅也先生および長谷川優先生(幹事)に留任して頂き、新たな峯篤史先生で構成されています。会員の皆様から投稿された論文を査読し、「審美歯科」の質の向上に貢献していきます。

「審美歯科」第34巻第1号を2021年9月に発行しました。この号では、原著論文2編、臨床：症例報告4編、合計6編の論文が掲載されています。是非ご一読頂き、日々の審美歯科治療にお役立てて頂きたいと思っております。

一般社団法人日本審美歯科学会は、日本歯科医学会の認定分科会から専門分科会への昇格を目指しています。第34巻第1号では原著論文2編が掲載されていますが、昇格には「歯科審美」に年間20編以上の原著論文が必要になります。本学会では、「歯科審美」への原著論文の掲載を増やすために、3症例以上を対象とし、原著論文の形式で作成した論文を原著として取り扱うことにしました。さらに、著者の中に本学会の会員を含み、本学会の活動<学術・臨床>と特に関連するPubMed収載の英語論文も審査対象になります。

日本審美歯科学会と「歯科審美」の充実を図るには、会員の皆様から多数の論文投稿が必要不可欠です。今後とも、ご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

(委員長 遠藤敏哉)

国際渉外委員会

2021年11月15～22日、日本歯科審美学会が組織加盟しているAsian Academy of Aesthetic Dentistry (AAAD)のBiennial Meetingがオンラインにて開催されました。AAAD大会はCOVID-19の影響で1年延期されましたので、3年振りの大会となりました。多くの講演、企業展示がなされたほか、日本歯科審美学会からは大槻昌幸理事長が招待講演を、若林一道常任理事が国際ショーケース講演をお務め下さり、会員の先生方もポスターセッションへご参加下さるなど盛会で、成功裏に閉会致しました。

同じく組織加盟しているInternational Federation of Esthetic Dentistry (IFED)は、AAADと同様に1年延期した大会を2022年10月27～29日にアブダビ(アラブ首長国連邦)コンラッドアブダビエティハドタワーにて開催することを決定致しました。

日本歯科審美学会の国際的活動は、COVID-19の影響で2年もの間低迷しておりましたが、次年度以降は積極的な交流が少しずつ再開できるのではないかと期待しています。

(委員長 田上直美)

国内渉外委員会

昨年度に引き続きコロナ禍ではありますが、例年と同様に日本歯科審美学会の社会連携事業の1つとして歯科審美学に関する出張講義を行っています。10月13日現在で25の養成校(歯科衛生士24、歯科技工士1)から講義の希望がありました。昨年と同じ講師の派遣を希望される養成校が多いようです。時節柄、オンラインでの講義希望も2校ありました。

講義の申し込み締切りは10月末であり、実施校はもう少し増えると思います。講義は2022年2月までの期間に実施されます。講師の承諾をいただいた常任理事、理事、代議員の皆様には厚く御礼申し上げます。

(委員長 中村隆志)

学術講演統括委員会

学術講演統括委員会は、石川功和先生(副理事長)、石川明子先生(常任理事)、中村映子先生(常任理事)そして委員長を務める私の4名で構成され、歯科医師学術講演委員会(石川明子委員長)と歯科衛生士・歯科技工士学術講演委員会(中村映子委員長)の両委員会を統括する役割を担っております。学術講演委員会は、学術講演セミナーの企画と運営を担当し、会員の皆様にセミナーを通じて審美歯科治療の最新情報を提供できるように活動しています。

これまで、本委員会の企画・運営により「極めるシリーズ」の各種セミナーが好評のうちに開催されて参りましたが、COVID-19感染症の影響によって2020年に予定された「マイクロデンティストリーを極める」と「メンテナンスを極める」の学術講演セミナーは2度にわたり中止となりました。そこで、本年3月に、webを用いたオンデマンド方式の学術講演セミナーを企画し、2週間で視聴をいただきました。このセミナーでは「はっきりさせたい歯周病と付着(接合)上皮内マージンの違い」というタイトルで行田克則先生(東京都開業)から、「補綴修復材料を考えたプロケア」というタイトルで小林明子先生(小林歯科医院勤務)からご講演いただき、ご視聴された皆様からご好評をいただきました。講演録画の作成にご尽力いただきました両先生に厚く御礼申し上げたいと思います。本年10月にオンラインで学術講演委員会会議を開催し、本年度のセミナー開催につい

て検討した結果、中止された「マイクロデンティストリーを極める」についてオンライン開催(ライブ配信)を3月頃に行う予定となり、ご担当された講師の先生方に再々依頼する運びとなりました。詳細が決まりましたらホームページ上でお知らせする所存でございます。(委員長 新海航一)

.....

資格承認統括委員会

2021年9月16日に第50期認定医・第22期認定士審査(症例提示および口頭試問)をオンライン形式で実施しました。その結果、受験者全員(認定医5名、認定士3名)の合格が承認されました。今後の認定医審査のスケジュールとして、第51期認定医の申請期間は2021年11月30日迄、書類審査は12月中旬、口頭試問は2022年1月下旬を予定しております。今回の申請に間に合わなかった有資格者の皆様は是非、次回の申請をご検討下さい。なお、次期の第52期認定医・第23期認定士の申請、書類審査および口頭試問のスケジュールは例年どおり(2022年4月~8月頃)を予定しております。

日本歯科専門医機構と(特非)日本歯科保存学会、(一社)日本歯内療法学会、(一社)日本接着歯学会、(一社)日本レーザー歯学会、本学会の関連5学会で『歯科保存専門医(仮称)意見交換会』を12回行い、専門医機構認証の新専門医制度(広告開示可能な専門医)について協議を重ねてきました。また、資格承認統括委員会・認定医制度運営委員会・認定医審議会合同会議を10月15日にオンラインで開催し、専門医制度創設に関する理事長大槻昌幸先生のお考えと参加者全員の意見を聞き、専門医制度への新たな一歩を踏み出しました。今後、現認定医がスムーズに本学会認定専門医に移行できる新制度設計が行われると思います。将来的に現認定医から本学会認定専門医へ、さらには専門医機構認証専門医に移行できるよう活動を継続していく所存です。今後とも変わらぬ御協力を戴きますこと心よりお願い申し上げます。(委員長 越智守生)

.....

広報委員会

広報委員会の大きな取り組みとして、ホームページのアップデート、ニュースレターの配信を行なっております。今季、広報委員会のメンバーとして、仲西康裕先生(副委員長)、齋藤哲也先生、永瀬佳奈先生、古谷昌義先生、横田春日先生にお願いしております。

本年9月より、内閣にデジタル庁が創設されましたが、デジタル社会構想会議において、日本の目指すデジタル社会の道しるべ

となる「新重点計画」案や、アイデアボックス に寄せられた国民の皆様の意見や自治体の事例を共有し、あるべきデジタル社会の姿やその実現に向けた議論を行ったと報告されています。

会員や国民の皆様の意見や他学会や海外の学会の情報を共有し、日本歯科審美学会がデジタル社会および国際社会における学会のみちしるべとなるため、広報委員会がその一助として貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

(委員長 若林一道)

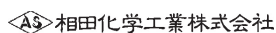
.....

学会主導型研究報告

審美的な歯科治療に関心を持つことが認知症の予防、さらには健康寿命を延伸させることにつながる。このテーマは本学会員のみならず、歯科医療関係者にとっては関心が高いところです。我が国は超高齢社会のトップランナーとして、医療、介護に対する関心が世界中から注がれています。そのような背景を受け、歯科審美学会の立場から何ができるかを考え、日本歯科医学会令和元年度プロジェクト研究助成に応募しました。採択された課題は、予防の観点から口元の審美性に関心を持つことが有効であることを提言したい、というものです。その成果の一部を昨年、本年と学術大会で報告してきました。また、このニュースレターが発行されている頃には本研究の報告会を兼ねた学術講演セミナーも終えていると思われます。しかし、進捗状況としてはコロナ禍の中にあって、満足できるところに至っておりません。そこで、「学会主導型研究」として継続することとなりました。まだまだ協力者を必要としております。会員の皆様、担当者が説明させていただきますので、関心がある方は事務局にご一報ください。

(前理事長 藤澤政紀)

賛助会員一覧



相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2
Tel: 042-366-1201
<http://www.aida-j.jp>



石福金属興業株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-20-7
Tel: 03-3252-8471
<http://www.ishifuku.co.jp>

医歯薬出版株式会社

医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10
Tel: 03-5395-7630
<http://www.ishiyaku.co.jp>



Ivoclar Vivadent株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24
Tel: 03-6801-1301
<http://www.ivoclarvivadent.jp>



ウルトラデントジャパン株式会社
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-34-14
初台TNビル3F
Tel: 03-5365-1760
<https://www.ultradent.jp/>



長田電機工業株式会社
〒141-8517 東京都品川区西五反田5-17-5
Tel: 03-3492-7651
<http://osada-group.jp/>



クインテッセンス出版株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6
クイントハウスビル
Tel: 03-5842-2270
<https://www.quint-j.co.jp>



グラクソスミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア・ジャパン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR
Tel: 03-4231-5108
<http://glaxosmithkline.co.jp/gsk-chj/>



クラレノリタケデンタル株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4
常盤橋タワー
Tel (フリーダイヤル): 0120-330922
<https://www.kuraraynoritake.jp>



サンメディカル株式会社
〒524-0044 滋賀県守山市古高町571-2
Tel: 077-582-9981
<http://www.sunmedical.co.jp>



株式会社ジーシー
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14
Tel (カスタマーサービスセンター・お客様窓口):
0120-416480
<https://www.gcdental.co.jp/>



株式会社松風
〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11
Tel: 075-561-1112
<http://www.shofu.co.jp/>



スリーエム ジャパン株式会社
〒141-8684 東京都品川区北品川116-7-29

Tel (コールセンター) : 0120-332329
<http://www.3mcompany.jp/dental/>



デンツプライシロナ株式会社
〒106-0041 東京都港区麻布台1-8-10

Tel (フリーダイヤル) : 0120-789123
<https://www.dentsplysirona.com>



株式会社東京技研
〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-25-13

Tel: 03-3703-5581
<http://www.tokyogiken.com/>



株式会社トクヤマデンタル
〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
イトーピア清洲橋通ビル7F
Tel (フリーダイヤル) : 0120-54-1182
<https://www.tokuyama-dental.co.jp>



ペントロン ジャパン株式会社
〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17-5F・6F

Tel: 03-5746-0316
<http://www.j-pentron.com/>



株式会社メディカルネット
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14
宝ビル 3階
Tel: 03-5790-5263
<https://www.dentwave.com/>



株式会社茂久田商会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5

E-mail: info@mokuda.co.jp
<http://www.mokuda.co.jp/>



株式会社モモセ歯科商会
〒543-8691 大阪市天王寺区南河堀町6-35

Tel: 06-6773-3333
<http://www.momose-dm.co.jp>



株式会社モリタ
〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18

Tel: 06-6380-2525
<http://www.dental-plaza.com>



株式会社モリムラ
〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10

Tel: 03-3836-1871
<http://www.morimura-jpn.co.jp/>



株式会社ヨシダ
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9

Tel (コンタクトセンター) : 0120-178-148
<http://www.yoshida-dental.co.jp>

Opalescence
Tooth Whitening *go*



新世代のホームホワイトニング材
オパールエッセンスGo

ついに日本上陸



カスタムトレイ
作製不要

2021年
11/15(月)
発売開始



詳しい製品情報は
こちらから

4634-JP
オパールエッセンスGoベジエントキット
(過酸化水素6%)
通常価格:8,500円

販売名: オパールエッセンス Go / 一般的名称: 医薬品含有歯科用歯面清掃補助材 / 高度管理医療機器 / 承認番号: 30300B2100024000 / 冷蔵保存

ULTRADENT JAPAN 株式会社

本 社 〒151-0061 東京都渋谷区初台1-34-14 初台 TNビル 3F TEL (03) 5365-1760 FAX (03) 5365-1759
大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区富原2-14-4 MF 新大阪ビル 4F TEL (06) 6151-3251 FAX (06) 6151-3252
第一種医薬機器製造販売業 許可番号: 1381110088 ©2021 Ultradent Products, Inc. All Rights Reserved.

0120-060-751 | www.ultradent.jp



JAPAN ACADEMY OF ESTHETIC DENTISTRY

発行人 大槻 昌幸

編集 一般社団法人日本歯科審美学会

広報委員会

制作 三宝印刷株式会社

一般社団法人日本歯科審美学会

www.jdshinbi.net/